



「節分会」

四季の部 金賞 文京区 小池 基夫

山 報

高幡不動尊

師走雑感

別格本山高幡山金剛寺 貫主 杉田 純 一

元朝大護摩供の法要で新たに明けた癸卯の年も、春季大祭国宝まつり、六月のあじさいまつり、そして十一月のもみじまつりと萬燈会を終え、はや師走と、齢を重ねると時の早さと一年の短さを感じています。

今年はまだに酷暑というにふさわしい夏の暑さと、その長さの影響から、当山の彼岸花の見頃も十日以上遅れ、また多くの参拝の方々や、七五三のみなさまの目を楽しませてくれる菊まつりも、暑さの影響で菊の開花をまつりに合わせるための温度管理と水やりには、大変な苦労があったと伺っています。しかしながら、愛好家の方々から寄せられた菊は、どれもみな見事な大輪の花を付けておりました。ただ残念なことは、年々菊の数が少なくなってきたことです。これは菊の育生の難しさや大変さによる愛好家の減少はもとより、気候の変化が遠因となっているのではないかと愚推するところです。

さて、話しは変わり私ごととなりますが、去る、九月十七日の夕方のこと、不動堂から控え室へと戻る際、一瞬の気の緩みにより、階段から後ろざまに倒れ落ち、後頭部を打ち付けて出血する怪我を負いました。山内職員の応急手当を受け、念のためにと病院へ行った検査の結果、異常はなく安心して帰りました。ところが次の日、布団から起き上がることが出来ない状態となり、改めて全身打撲との診断があり、三週間もの安静を強いられることとなりました。大事に至らずとも自らの不徳の致すことと反省する出来事でした。

寒さも次第に厳しくなる師走、煤払い、星祭り、納めの不動、正月の準備等と当山も忙しい日がつづきます。どうかみなさまにおかれましても、体調に気をつけて、元気に、笑顔でお正月を迎えられ、良き一年でありますよう心より願っています。

お不動さまの心——(一一二三) 現代の世相から(83) 廣澤隆之

先日、甥の結婚式に参列してきました。甥は会社員で、お似合いのパートナーとの出会いを喜んでいようと微笑ましく、弾む気持ちで式に臨みました。

結婚式は披露宴を行う都内のホテル内のチャペルで行われました。甥には特別に信心深さがあるわけではなく、むしろ宗教からはかけ離れた生活をしています。ときおり父親(私の兄)の墓参りには来ますが、とりわけ仏教に関心があるわけではありません。そのような甥がキリスト教での結婚式を選んだのです。

彼のように日頃は宗教に無関心でも結婚式はキリスト教のチャペルという若者は今でも多いようです。そして初詣には神社に行き、結婚式はキリスト教で、そして葬式は仏教で行う日本人の振る舞いは、多くの識者によって日本人が無宗教であることの証左のように評論されます。私は多くの日本人は無宗教ではないと確信しています。いやそれだけではなく、そもそも人間は誰もが宗教的に生きてい

ました。その際に『聖書』の言葉を牧師はまず英語で、その後に関き取りにくい拙い日本語で唱えます。この説法に私は違和感を覚えました。そもそも牧師といつてもどうもアルバイトと思える聖職者が、いかにもとつてつきたような説教をしたのです。そこで私が疑問に思ったのは、なぜ『聖書』の文章を最初に英語で唱えたのかということでした。



江戸時代 大師教興像

『聖書』のうち『旧約聖書』はヘブライ語、『新約聖書』はギリシヤ語が原典です。牧師が最初に唱えたのは『旧約聖書』の一文と思われます、その後にはイエスの言葉として紹介したのは『新約聖書』の一文です。ですから牧師が厳かに唱えるのであればヘブライ語とギリシヤ語で唱え、その後で日本語でも唱えたらよいはずですが。なぜ英語で唱える必要があるのでしょうか。唱えた英語も日本語もヘブライ語やギリシヤ語の翻訳であるのです。しかも新郎新婦とその親族はみ

な日本人です。その参列者の前で『聖書』を英語で唱えることに私は文化の差別を見ていました。すなわちこの現代的ホテルのチャペルの中で英語が厳かに語られることがカッコイイと参列者が思うはずだと考えて、結婚式の進行をホテル側で企画したのではないかと予測できます。その企画にのつとつてアルバイトの外国人牧師が英語で唱えたように思えます。彼は神の言葉の代読者として参列者より高い位置にいます。いうより、英語でかくよく語れるという文化的優位を象徴する高みにいるように思えました。

それは戦後の貧しかった頃に、アメリカ軍が優越的な位置から英語で語りかけチョコレートを子供たちに恵んだ光景と重なります。私たちは戦争直後の呪縛から解放されないうまま、この現代の都心の高級ホテルの一室で英語文化を崇め、アメリカ人が高みから英語で語りかける言葉

を聞いているのです。私は結婚式でこの文化的な屈辱の光景に出会いました。繰り返しますがキリスト教を批判するのではありません。このような結婚式を嬉々として受け容れる私たちの文化的生き方が問われているのです。

国際関係がますます複雑になる時代、そして技術革新がめざましい現代社会において共通言語である英語はますます重要になるでしょう。そして英語教育が抜本的に見直されなければならないでしょう。しかし英語文化に同調するあまり私たちの先祖が育んだ文化的価値を貶めてはならないはずですが、町にもテレビにもインターネットにもカタカナ語の氾濫が顕著です。その状況が人生の深い意味を汲みとる私たちの文化的伝統を損なっていないでしょうか。

その文化的伝統があればこそ、私たちは神社仏閣に参ります。その静謐な空間で深く感じている心こそ私たちの宗教性の根源でしょう。日本人は無宗教な生活をしているのではないのです。

- 廣澤隆之先生のプロフィール
- 大正大学名誉教授
- 浄福寺御住職

ご奉納御礼

左記ご奉納頂き大変有難く厚く御礼申しあげます。
(敬称をすべて省略させていただきます)

境内整備緑化資金

寄進者芳名
(令和五年八月一日～十月三十日)

昭島市 (株) エコス
彦根市 西澤 加奈子

大提灯奉納者芳名

(令和五年八月一日～十月三十日)

中野区 黒澤 功記
中野区 黒澤 功栄
中野区 黒澤 佳代
中野区 黒澤 唯喜子
多摩市 勝又鉄筋工業(株)

幟旗奉納者芳名

(令和五年八月一日～十月三十日)

二本 杉並区 仁平 昌孝
世田谷区
(株)カナコン代表取締役
清松 加奈子

東久留米市 佐野 和子
西東京市 千櫻 倭木 桜
二本 日野市 安川 武雄
日野市 有泉 雅弘

八王子市 清興運輸倉庫(株)
八王子市 木村 崇彦

一、品名 あじさい鉢

彼岸花球根

奉納者

立川市 小野 保子

一、品名 マスク(手作り)

奉納者

国立市 佐藤 ふじ子

一、品名 土間ほうき 三本他

奉納者

日野市 高橋 厚子

相模原市 竹越 フサ

昭島市 高幡不動ござれ市
福生市 福栄講 秋山 充典

日野市 水島 悦子

日野市 下田 孝治

日野市 平 富夫

御詠歌始めませんか

『密厳流御詠歌』講員募集のご案内

御詠歌とは和歌調の詞に節を付け鈴・鉦を使ってお唱えする仏教歌で、星まつり・常楽会などの法要でお唱えします。高幡山では次のとおり御詠歌の新講員を募集しますので、大勢様ご参加下さいませようご案内申し上げます。

記

- 一、名 称 遍照講高幡山支部
- 一、参加資格 どなたでもご参加いただけます
- 一、指 導 密厳流遍照講師範
- 一、会 費 一ヶ月 三,〇〇〇円
(但し、鈴・鉦などの道具は別費)
- 一、稽古日時 月二～三回 午前十時～十二時
高幡不動尊内「遍照講高幡山支部」
問い合わせ先 電話 〇四二二五九一〇〇三二

大覚寺門跡推薦教室 いけばな 嵯峨御流

[第1回]



大沢池 大覚寺 大本山 旧嵯峨御所

「大覚寺門跡推薦いけばな嵯峨御流高幡不動尊教室」は平成十六年十月二十五日に開催されました。それから十九年の間、毎月二回のお稽古に加えて十一月の萬燈会で花展を開催してまいりました。嵯峨御流は京都嵯峨野にございます大覚寺を家元としております。一、二〇〇年前の昔、嵯峨天皇様が嵯峨野に離宮をお造りになりました。ある日庭園の大沢池の島の菊を殿上にお生けになられたところ、その花に「天・地・人」

三才の美しさを備えている事に感動なさって「後世花を生くるものは宜しく之を以て範とすべし」と述べられました。これが当流の始まりとされております。離宮はその後大覚寺となり、大沢池は当時の姿を今もなお留めております。教室では、荘厳華、お生花盛花、瓶花、花がさね等をお稽古しております。花それぞれが持つ出生、特徴を生かしながら、宇宙の真理哲学を花の中にいけ込んでおります。これからこの欄で嵯峨野疏のお花について御紹介してまいります。
(講師 納富貴甫)

高野山
たかのやま

結ぶ庵に
むす いかり

袖朽ちて
そでく

昔の下にぞ
こけした

有明けの月
ありあ つき

「弘法大師第二番詠歌」

高幡不動尊 フォトニュース



京王沿線三古刹「密教の祈り」(高尾山・深大寺・高幡山) 10/26



装道きもの学院様の七五三着付直し 11/3



萬燈会奉納コンサート 11/22



八十八ヶ所結願 桑澤俊宏先生のご法話 10/21



いけばな嵯峨御流華展 11/23



遍照講習会～宮城隆照先生 11/16



秋季大祭～大般若転読法要 9/28



先代祐勝和上七回忌法要 10/6



職員旅行～宮城県北釜观音寺にて
大震災十三回忌法要 10/12



中央大学応援団ご参拝 10/17



牧宥恵先生の仏画教室 11/18



日野防犯協会 交通安全パレード出発式 9/24



花塚供養 11/23

年末・正月・初不動・節分のご案内

◆十二月

○10日(日) フリーマーケット
○13日(水) 煤払い(午前9時)

堂塔や仏さまの一年の煤を山内僧侶達が払います。

○15日(金) お焚き上げ(午前9時)

○17日(日) ござれ市(がらくた市)

○21日(木) 月例写経会(午後1時30分) 法話 山内僧侶

○22日(金) 冬至星まつり(午後5時・於不動堂)

星曼荼羅に来年の厄除・開運を祈る行事です。

祈願終了後、冬至うどんの接待があります。

○24日(日) 千体地藏尊月例法要(午後2時) 法話 山内僧侶

○28日(木) 納めの不動尊・歳の市

お焚き上げ(午前6時・9時)

古い護摩札・お守り・だるま等を納め、一年の無事

を感謝し、来年の安全を祈ります。

○31日(日) 大晦日・除夜の鐘供養

先着1〜8組の方に無料で撞いていただきます。

◆一月

○元旦・2日・3日

元朝祈願大護摩修行

元旦は午前0時、2日・3日は午前6時から大護摩修行。尚2月11日までの護摩修行は特別の時間帯になっておりますのでご注意ください。

自動車の交通安全祈願

元旦は午前0時から午後6時まで、
2日・3日は午前6時から午後6時まで。

○元旦〜7日 日野七福神めぐり(朱印受付)

○14日(日) フリーマーケット

○15日(月) 厄除牛王宝印々可(於不動堂)

弘法大師御作と伝わる秘印のお加持が受けられます。
息災延命・頭痛除けの靈験が知られています。

日野七福神めぐりのご案内

新春恒例となりました日野七福神めぐりを左記の通り実施致しますので皆様方お誘い合わせてご参詣下さい。

尚、ご朱印につきましては『日野七福神めぐり色紙』をおすすめ致します。

記

一、実施期間 令和六年一月一日〜七日

一、ご朱印受付時間 午前九時〜午後四時

一、七福神色紙 一枚 三〇〇円也(各寺院にあります)

一、ご朱印料 一印 三〇〇円也

※実施期間・時間にはくれぐれもご注意ください。

○布袋尊 宗印寺(平山)

京王線平山城址公園駅より徒歩五分

○大黒天 善生寺(豊田)

京王線南平駅より徒歩十五分

○寿老尊 延命寺(川辺堀之内)

京王線南平駅より徒歩二十分

○弁財天 高幡不動尊(高幡)

京王線・多摩都市モノレール

高幡不動駅より徒歩三〜五分

○毘沙門天 安養寺(万願寺)

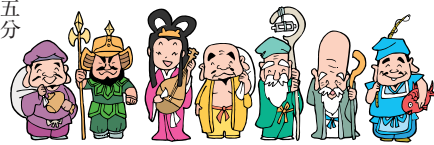
多摩都市モノレール万願寺駅より徒歩五分

○福祿寿 石田寺(石田)

多摩都市モノレール万願寺駅より徒歩五分

○恵比寿天 真照寺(落川)

京王線百草園駅より徒歩三分



◎冬至星まつり

当山では、毎年冬至の晩に不動明王様の御宝前にて来年の当星を供養し、皆様の無病息災と厄除開運をご祈願いたしております。どうぞお申込みいただき良い年をお迎え下さい。

一、星祭料

金一、〇〇〇円也

一、星祭日

十二月二十二日

午後五時

※祈願終了後、冬至うどんの接待があります。

◎日野七福神めぐり色紙

七ヶ寺めぐると記念品をお渡しします。さらに、七分分の色紙を集めると記念湯呑を贈呈。



○21日(日) お焚き上げ(午前6時・9時)
ござれ市(がらくた市)

○24日(水) 月例写経会(午後1時30分) 法話 山内僧侶

○26日(金) 千体地藏尊月例法要(午後2時) 法話 山内僧侶

○28日(日) 文化財防火演習(午前9時)

初不動大祭

稚児行列(お練り) (午後2時)

だるま市 関東各地のだるま屋さんの威勢の良い掛け声が

飛び交い、十万人の人数で賑わいます。

○31日(水) 豆煎り式(午前10時)

◇二月

○3日(土) 節分豆撒式・だるま市

豆撒式は午前10時から5回。

どなたでも申込みにより年男として参加できます。

又節分会員になっていただき、お札、お供物を受け

ることもできます。

○11日(日) フリーマーケット

○15日(木) お焚き上げ(午前6時・9時)

常楽会(涅槃会) (午後1時法話・2時法要)

お釈迦様が涅槃に入られた日。お釈迦様を追慕し仏

恩に感謝する法要を行います。

法話 佐久市 圓満寺副御住職

演題「釈尊と出会った人々」 小林 深佑 先生

○18日(日) お焚き上げ(午前6時・9時)

○21日(水) 月例写経会(午後1時30分) 法話 山内僧侶

○24日(土) 千体地藏尊月例法要(午後2時) 法話 山内僧侶

○28日(水) 月例祭(ご縁日)

一月一日一番護摩のお申込みは
十二月二十九日までにお願ひ致します

節分年男のご案内

◇御本尊不動明王の御宝前に於て攘災招福立春大吉の大護摩供を奉修します。年男としてご参列いただきたくご案内申し上げます。

一、日時 二月三日(土)

第一回 午前十時

第二回 午前十一時

第三回 午後一時

第四回 午後三時

第五回 午後四時

※各回、七十名限定、先

着申込順と致します。

一、式場 不動堂及び

宝輪閣二階

一、冥加料 金三万円也

※袴は当山でお貸し致します。

◇節分当日は早朝から会員の皆様の七難即滅・七福即生の

節分会々員のおすすめ

護摩をご修行致しますので、奮ってご参加下さい。

一、会員には、特別会員(冥加料 一万円) があります。

会 員(冥加料 三千元)

一、当山事務局にて受付し、引替証をお受け取り下さい。

一、立春大吉の護摩札と福豆、供物等をお授け致します。

(参加申込み 二月三日 午後四時まで)



御護摩札の受取場所について



十二月二十九日までに

お申込みいただきました元旦護摩はすべて元旦の一番護摩でご祈願致します。お札のお渡しは午前二時頃からです。

一〜三日 客殿二階洋間

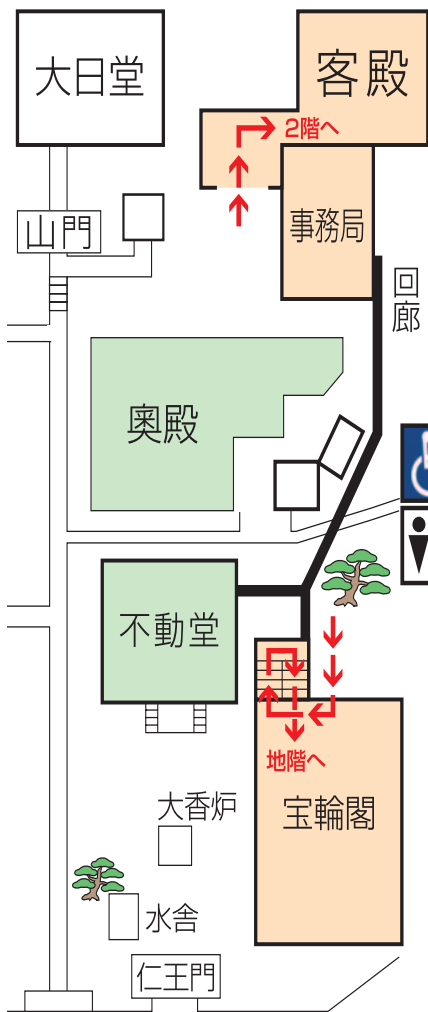
四日以降 宝輪閣地階

当日受付のお札は

宝輪閣地階

大護摩札(三万円以上)は

宝輪閣二階



不動堂内お参りの際は下足袋を各自ご用意下さい
ますよう、ご協力をお願い致します。

稚児募集要項

来る一月二十八日(日)の初不動大祭お稚児を左記の通り募集致します。奮ってご参加下さい。

記

一、日時 一月二十八日(日) 午後一時四十五分より「おねり」

一、集合 正午までに高幡山本坊(時間厳守)

一、申込 一月二十五日まで

一、冥加料 金七千円也

(お護摩料、お守り札、稚児袋、お供物、

衣裳料、化粧料、軽食二人前)

一、年齢 三歳〜七歳位まで

一、ご準備 服装自由(しき紐・細紐を各一本ご持参下さい) 履物はなるべく草履・足袋をご持参下さい。

◎ほのほうちわ授与

厄除ほのほうちわは元旦から節分までお頒けいたします。 一、七〇〇円也

◎三ヶ日参詣の

駐車場について

今年も左記の方々のご厚意により、三ヶ日の駐車場を借りできましたのでご利用下さい。

※臨時駐車場ご提供の方々は 東京南農協様・さわやか信用金庫様・食品のおおた様・日野市役所様等の皆様でございます。尚、食品のおおた様は二日まで。

※駐車場には限りがございます。交通渋滞を防ぐ為、出来る限り京王線や多摩都市モノレール等のご利用をお願い致します。



御護摩札郵送のご案内



大護摩札
30,000円以上
長さ 58cm



中護摩札
10,000円
長さ 52cm



護摩札
5,000円
長さ 45cm



護摩料
3,000円
長さ 37cm



懐中札
3,000円
長さ 11cm



交通安全祈願料
3,000円
長さ 15.5cm

当山では御護摩札を郵送により授与する受付を行っています。
郵送ご希望の方は、必要事項(お名前、お願い事、生まれ年、郵送先住所、ご連絡先等)をご記入のうえ、郵便(葉書、封書等)、又はFAXでお申し込み下さい。
御札が届きましたら、同封の払込取扱票で郵便局にてご送金下さい。

※送料はお問い合わせ下さい

お申し込み・お問い合わせは高幡不動尊事務局まで

〒191-0031 東京都日野市高幡733番地

高幡不動尊 護摩札郵送係

電話 042-591-0032 FAX 042-593-3038

※電話、メール、インターネット等でのお申し込みは受付しておりません。

全国名刹御貫主

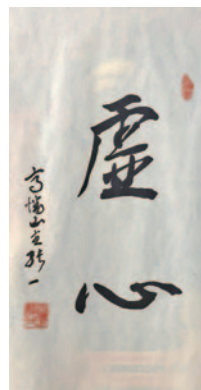
揮毫入り御本尊カレンダー

恒例の全国名刹貫主揮毫入り御本尊カレンダー「慈光」ができました。購入希望の方は事務局へお申し出下さい。

尚、当山貫主揮毫と不動明王像は四月に掲載。

「虚心」

物ごとにとらわれない心。
妄想を去ること。無心。



一部 二、五〇〇円
※ご希望の方には郵送致します。

送料 五百円

常楽会記念法話

日時 二月十五日(木) 十三時から

会場 客殿二階(聴講無料)

講師 佐久市 圓滿寺副御住職

小林 深佑 先生

・演題

「釈尊と出会った人々」



山内消息

弘法大師ご誕生一二五〇年

東京多摩教区総本山法要(9/6)

総本山智積院大師堂にて東京多摩教区主催の弘法大師ご誕生一二五〇年慶讃法要が勤修され、当山貫主が導師を勤めました。法要は法螺貝の先導にはじまり、総本山智積院支部の皆様による御詠歌が唱えられるなど、お大師様のご生誕を共にお祝いしました。

(杉田記)

智山専修学院生来山(9/7)

総本山智積院より一年間の修行に励む智山専修学院生が来山し、境内諸堂を参拝、護摩修行に参列頂きました。大本山・別格本山を巡る参拝の旅でしたが、普段の厳しい修



初々しい智山専修学院の皆様

行生活からひととき離れ、良い気分転換になったのではないでしょうか。また、寺院の歴史や伝統に触れ、肌で感じることのできた今回の体験をぜひ今後の仏道修行に活かして頂きたいと思えます。

(松本記)

職場体験

九月中旬、日野第四中学校・越越中学校の生徒さん達にお寺の仕事を体験して頂きました。境内掃除にはじまり、仏器磨きや写経などお寺独特の内容は、とても新鮮に感じました。未来を担う皆さんの糧になっていただけたら幸いです。

(五十嵐記)

自衛消防活動審査会(9/14)

自衛消防隊員の技術及び防火行動力の向上を目的とした自衛消防活動審査会が行われ当山職員で編成された「高幡山自衛消防隊」は、一号消火栓の部に参加しました。今回は敢闘賞をいただき、災害に対応する日頃の備えの重要性を再確認しました。(百戸記)

大般若会・お花講総登壇(9/28)

秋季大祭大般若経転読付大



山川先生のありがたいご法話

護摩供が勤修され、お花講百十名が総登壇されました。まづ客殿にて山川弘巳先生の記念法話があり、その後不動堂にて大般若会に参列、高らかな大般若経の声を耳にして仏法の功德を受けられました。

(小澤記)

職員研修旅行

十月中旬、二班に分かれての研修旅行が、四年振りに実施されました。今回は東日本大震災十三回忌法要を宮城の北釜観音寺にて勤修し、松島瑞巖寺、蔵王を見学しました。特に蔵王の御釜は霧ひとつなく湖面が翡翠色の絶景で強く感動しました。(丸山翔記)

管長猥下重任奉告法要(10/17)

真言宗智山派管長、総本山智積院化主第七十二世大僧正布施浄慧猥下の重任奉告法要

が総本山智積院金堂にて厳粛に執り行われ、諸大徳と共に当山貫主も祝意を表しました。

(佐竹智記)

大本山大覚寺御門跡(晋山)(10/20)

京都ホテルグランヴィアに於て真言宗大覚寺派管長、大本山大覚寺第六十五世御門跡山川龍舟猥下の晋山祝賀会が各総大本山諸大徳をはじめ、いけばな嵯峨御流関係各位など多数ご臨席のもと盛会に執り行われ、当山貫主も出席しました。

(上田記)

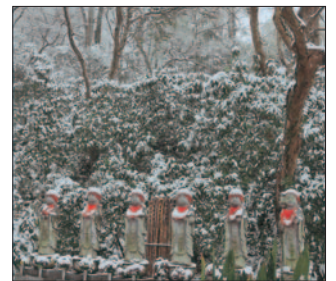
多摩八十八ヶ所巡拝祈願(10/21)

コロナ禍の影響で中止の続いていた多摩八十八ヶ所巡りが四年振りに開催され十月二十一日に結願を迎えました。本年は、お大師様御誕生千二百五十年記念の年に当たりお大師様を巡る遍路の旅には多くの参加をいただき総勢五十名の参拝団となりました。法務ご多忙の中、各御寺院様には懇切なるご接待をいただき御礼申し上げます。

(野村記)

御詠歌川崎大師大会(10/23)

密厳流遍照講川崎大師奉詠



「雪帽子」四季の部 銅 日野市 高木 真知子

御守等授与料 変更のお知らせ

令和五年六月一日より御守等の授与料を変更致しました。

御守三〇〇円↓五〇〇円
五〇〇円↓七〇〇円

詳しくは高幡不動尊公式ホームページをご覧ください。

第三十三世川澄祐勝大僧正七回忌

十月三日、第三十三世貫主川澄祐勝大僧正の七回忌法要が大本山高尾山薬王院佐藤秀仁御貫首を大導師にお迎えし勤修されました。大導師様の回向文をご披露させていただきます。

謹み敬つて真言教主大日如来 両部界会諸尊聖衆 殊に別いては七回忌本尊阿闍如来 金剛部中諸大眷属 真言宗祖弘法大師 中興興教大師 総じては尽空法界一切三宝の 境界に白し 言うさく

夫れ惟みれば別格本山高幡山明王院金剛寺第三十三世貫主川澄祐勝大和上 去ぬる平成二十九年十月十日 白日の下を辞して密厳法界に居を遷し玉いしより早や七星霜 大和上の德音絶えて 久しといえども凜然たる大和上の温顔拜するに由なく 慈悲憐愍たる言の葉再び聞くことを得ず

顧みるに大和上は 昭和三十一年 第三十二世秋山祐雅大和上を 仰ぎて笈を高幡山に負い 次いで四度の加行を履修し 昭和三十五年総本山智積院に登りて伝法灌頂の壇に入りては

五智の瓶水を 汲む 剩へ密門の法 灯を伝持せられ両祖大師の恵澤に浴す 重ねては祐雅大和上の薫陶提撕を辱ふし金剛寺運営 檀信徒教導の深奥を探らんと欲す

以つて山内に在りては精励恪勤 あらゆる要職を歴任せられ 秋山祐雅貫主を扶翼し高幡山興隆に心腑を砕く

平成元年十一月十四日 衆望の期するところ 秋山祐雅貫主の後を受け高幡山第三十三世を薫すや檀信徒教化 山



総本山 大日堂 へ進む大導師様

容整備に烈々たる 心魂を傾注し 然れば丈六不動三尊修復身代わり丈六不動三尊造立開眼をはじめ奉り宝輪閣 奥殿大師堂 聖天堂の建立 かくの如き大和上の誠心 精励の徳行は本尊聖者大日大聖不動明王たちどころにして感応に至り大威力の冥加を得て大浄業悉く完遂を告げ関東屈指の淨利は益々輝光巖然にして極まりなし

大和上の偉業は然のみならず 自ら箒を持して境内作務に勤しみ 給い 植木ばさみを持すれば全山二百種類数千株余りに及ぶあじさいの剪定に山内職員と共に寧日無し 時期色とりどりに咲き誇るあじさいの花々は嬌然にして来山信徒諸衆を慰め これぞ大和上の誓願たる「生命を洗濯するお寺」の唯心所現といえり

大和上 人に接するや清廉潔白なるを以つて檀信徒の信望を聚め 入りては慈愛の念至つて深きにして徒弟の薫育に心を尽くし化導薫習怠りなくは鳳雛濟々の如し 誠に此れ緇素の龜鑑にして清範たり

本日茲に護持施主 別格本山高幡山明王院金剛寺現董杉田純一御貫主 一山を挙げて大和上尊靈七回忌の法筵を展べ以つて 減罪生善の勝因に備う 少納法縁篤きが故を以つて導師の席を賜り今ここに一心を清浄にして御宝前に稽首低頭し大和上の遺徳を偲びて恭しく深般若の法味を奠じ法類有縁の浄侶と共に大菩提を薦む 仰ぎ願わくは修するところの功德を以つて無上の菩提を増進せられん事を 重ねて乞う

寺門興隆 山内安全 殊には檀信徒各位の家門隆昌に永く哀愍擁護を垂れ給わん事を 乃至法界 平等利益

維時 令和五年十月三日

大本山高尾山薬王院第三十三世貫首

秀仁 敬白

第五十二回(十月二十八日〜十一月十七日) 高幡不動尊菊まつり

立川菊華会

橘 勇

第五十二回高幡不動尊菊まつりの開催おめでとう御座います。

今年は六〜九月に前例のない高温日が続き真夏日は九十日以上となる過去最多の影響を受け、各菊花会の皆様も大変御苦労されて育成されたと存じます。開花時期が遅れましたが、盛大に開催され喜びもひとしおです。高幡不動尊参拝の菊ファンの方からも声を掛けて頂き励みになり、来年度は今年の経験を生かし育成に努めたいと思っております。

日野市観光協会、高幡不動尊、関係各位の皆様のご尽力ご協力に感謝申し上げます。

上位入賞者(敬称略)

○内閣総理大臣賞

盆養・厚盛・国華北海

八王子市 和田 益男

○文部科学大臣賞

盆養・間管・彩胡乙姫

多摩市 高斎 滋



日野市長賞

○厚生労働大臣賞

切花・間管・泉郷の駒

日野市 西野 正人

○農林水産大臣賞

切花・太管・泉郷情熱

八王子市 和田 益男

○環境大臣賞

競技花盆養・厚物・国華八坂

八王子市 和田 益男

○東京都知事賞

盆養・だるま厚物・国華金山

八王子市 堀江 勝年

○日野市長賞

切花・厚盛・国華八坂

八王子市 和田 益男

盆養・厚走・国華の幸

国分寺市 田口 文夫

○八王子市長賞

盆養・細管・彩胡王妃

立川市 橘 勇

○立川市長賞

盆養・ジャンボ補助・国華金山

多摩市 高斎 滋

○府中市長賞

盆養・補助三色花壇・国華金山 越山彩胡王城

国分寺市 萩生田 稔

○昭島市長賞

切花・一文字・岸のオーロラ

八王子市 和田 益男

○小金井市長賞

切花・厚盛・兼六香菊

日野市 西野 正人

○小平市長賞

切花・間管・彩胡乙姫

八王子市 和田 益男

○国分寺市長賞

盆養・補助厚物・国華金山

立川市 橘 勇

○東大和市長賞

切花・一文字・玉光院

八王子市 和田 益男

○多摩市長賞

切花・太管・泉郷情熱

日野市 西野圭永子

○日野市議会議長賞

盆養・盆栽地植・村山の御所柳

八王子市 古川 幸義

○全菊連会長賞

切花・細管・天女の名所

日野市 西野圭永子

○高幡不動尊賞

競技花盆養・管物・泉郷歌曲

国分寺市 小峰 由彦

○審査委員長賞

盆養・太管・泉郷情熱

立川市 橘 勇

○理事長賞

切花・新花管物・国華園賞・泉郷女川

八王子市 和田 益男

○大会会長賞

切花・新花管物・泉郷水の神

八王子市 和田 益男

○日野自動車賞

切花・新花厚物・国華福招来

八王子市 和田 益男

○富士電機賞

競技花切花・管物・彩胡優雅

八王子市 和田 益男

○東京南農業協同組合長賞

切花・細管・彩胡富貴

八王子市 和田 益男

○京王電鉄賞

競技花切花・厚物・彩胡王妃

多摩市 峯岸 忠

○コニカミノルタ賞

盆養・補助管物・岸のオーロラ

八王子市 和田 益男



農林水産大臣賞

奥殿だより 第六回

「涅槃図」修復報告

『山報』第二二一号で紹介致しましたように、「涅槃図」は傷みがひどくなっていた為、昨年四月より保存修復作業を行っていました。

明治四十年（一九〇七年）に実施された前回の修復作業後に生じた折れや切れた部分などが、無事きれいに修復されました。（左の写真参照。）

本年五月一日にお戻りにな

り、開眼法要が営まれましたが、御信徒各位にお参りいたる為、多くの寺院に什宝として所蔵されており

そこで、涅槃会に先立ち、奥殿の新年に向けての展示替えの中で、展示する事に致しました。しかし、展示ケースの制限もあって、掛軸全体をご覧戴けるようには展示する事は、かないませんが、その点は御容赦ください。

涅槃図は、お釈迦様の入滅の日である二月十五日に勤修

される涅槃会の法要の際に掲げられる絵で、「涅槃経」という經典に基づいて、描かれております。涅槃会で使用される為、多くの寺院に什宝として所蔵されており

描かれていて絵の内容は、色々な涅槃図によって多少異なる部分もありますが、基本的には同じです。

上部中央には、満月が見えます。お釈迦様が涅槃に入られたのが、二月十五日十五夜の日だからです。

中央に、沙羅双樹の下で涅槃に入ったお釈迦様が宝床に

臥した様子を描き、その周りをお釈迦様が涅槃に入った事を嘆き悲しむ、十大弟子や菩薩達が囲んでおります。

右側には、天上より阿那律尊者に先導され、四人の天女と共に雲に乗って切利天から降りてくる、お釈迦様の生母摩耶夫人が描かれております。お釈迦様の枕元の沙羅双樹の枝には、摩耶夫人がお釈迦様に向けて投げた、長寿の葉が入っていると云われる袋が掛っております。

画面下段には、様々な動物や虫たちまで、嘆き悲しんでいる様子が描かれております。ただし、基本的には猫は描かれる事はありません。ネズミがお釈迦様のお使いとされている為です。

弟子や菩薩、動物、虫以外にも、植物も嘆き悲しんでいる様子が描かれております。八本の沙羅双樹のうち、右側の四本は葉が白く、お釈迦様の入滅を悲しんで枯れている様子を表しており、左側の四本は、葉が枯れておらず、お釈迦様の教えが不滅である事を表しております。

今回の修復では、修復前よ

り天地の裂を幅広くとりました。おそらく明治の修復では、旧大日堂の天井の高さに制限されてか、涅槃図の大きさに対して、やや幅を狭く感じ仕立てております。そこで現在の大日堂で可能な長さまで、全体の丈を長くしました。

涅槃図は何枚もの小さい判の紙を継いで描かれております。明治の修復の際に傷んでいた部分が切取られたのか、紙と紙を継いである部分の絵が、多少ずれている部分があります。欠失している部分も小さく、その割にはそれを補う作業が時間と経費を大変多く必要とするので、この度の修復では、補う事は致しておりません。欠けている絵を補う作業を「補筆」と言いますが、近年の絵画作品の修復では、補筆を行わないのが、一般的であります。

この度の奥殿の展示では、修復工程の写真パネルや、新旧の紙や裂などの材料も展示致しております。是非ご覧になられ、修復作業について理解を深めていただき、涅槃会の法要にもご参加いただければと思います。（藤井和夫記）



高幡いきもの曼荼羅 ②5

「雑草という草はない」というのは植物学者・牧野富太郎博士の言葉ですが、人間の尺度は様々なので必ずしもすべての動植物が人にとって有益とはいきません。

例えばクズの花は綺麗ですが、蔓の繁殖力が凄まじく、あつという間に境内の至る所を覆い尽くしてしまいます。裏山では特定外来生物のアレチウリらしき植物も見掛けるようになりました。また境内で木蔭を提供し、緑目を楽しませてくれている樹々もやがて寿命を迎えて倒木の恐れが出てきます。

先日も日野市指定天然記念物で樹齢二百年余になるサンシュユの木が寿命のため枯れてしまい、市の関係者立ち合いのもと伐採されました。改めて高幡不動尊の境内は自然の力と人間の営みが重なり合う場所であることを認識させられます。

森羅万象という言葉は宇宙に存在する一切のもの、全ての営みという意味で使われます。言い変えると「大日如来」や「八百万の神」に象徴されるかも知れませんが、それは互いに影響し合い、同じ時間を共有し、環境を共にする仲間の事ではないでしょうか。「いきもの」のみならずこの世に存在するものには必ず理由があるのです。



クズの花



つる性の植物ガガイモの花



サンシュユの伐採作業

なにげなくつかっている仏教のことば 一四苦八苦 (しくはつく)

さんざん苦勞することや、ひどく苦しむ悩むことを、人はよく「四苦八苦する」といいます。

（四苦八苦）とは、生・老・病・死の四苦に、愛別離苦（愛する人との別れ）・怨憎会苦（嫌いな人との出会い）・求不得苦（求めるものが得られない）

五陰盛苦（心も体も思い通りにできない）の四つを足して八苦となります。

この中で理解しにくいのは、生まれることを「苦」とすることではないでしょうか。私たちが「苦」と聞くと、「苦しい」「苦痛」という意味であると考え

ますが、仏教語としての「苦」は、「思い通りにならない」ことの意として用います。それ故、思い通りの身の上に生まれてくるのができないことが「生苦」の意味となります。

（小林靖典）

お不動さま教えて？

質問 五重塔地下の休憩所に掲げられているお釈迦さまのレリーフについて教えてください。

（前号のつづき）

お答え はい、お答えします。五重塔地下の休憩所にある最後のレリーフは《涅槃》と題されたレリーフです。

レリーフのブツダの姿は、床に横たわった、いわゆる「寝釈迦」とか、「涅槃像」と呼ばれる姿をしています。

これは、クシナガラの地にあった娑羅樹の間に横たわり、自らの腕を枕とし、頭を北に、顔を西に向けて、その生涯を閉じられ、完全に煩惱のとらわれを脱した状態、すなわち「大般涅槃」を得たときの姿を描いたものです。

齢八十に達したブツダは、マガダ国の都のラージャガハ（王舎城）を出立し、北へ向って最後の説法の旅に出られました。途中、体調を崩しながらも旅をつづけたブツダは、クシナガラという寒村に辿



涅槃 当時のインの満月の夜のことであり、この時、

り着き、沙羅の樹（沙羅双樹）の間に床をもうけられ、そこで集まった人たちに向って最後のことを発せられました。それは、「さあ、修行僧たちよ。お前たちに告げよう、もろもろの事象は過ぎ去るものである。怠ることなく修行を完成なさい」という簡潔かつ深淵なものでした。このことばは、修行僧だけではなく、現代のすべての人にも当てはまるものでないでしょうか。

その日の出来事は、二番目の月の満月の夜のことであり、この時、

季節でもないのに沙羅樹は一斉に花を咲かせ、そして散ったとされ、それはあたかも白い鶴のようであったと経典に伝えられています。この情景を承けて『平家物語』の冒頭には「祇園精舎の鐘の声、諸行無常の響あり。沙羅双樹の花の色、盛者必衰のことはりをあらはす」と著されていることは、あまりにも有名なことです。

（終わり）

諸行事に参加して

秋季大祭記念法話

「安らかなる」

心をもとめて」

真言宗智山派教学部長

大田区 圓應寺御住職

山川 弘巳 先生

稲城市 澤村 陽佳

「安らかなる心」とは「優しい心」ではなく「根(信心)のしっかりした心で逆境も乗り越えていけることだ。という意味のことをおっしゃっていたと思います。そのような強くしなやかな心をお不動さんで学べて良かったです。

八王子市 山佐 智子
手を合わせるのに金剛合掌があることを初めて知りました。また、お仏壇にお供えするお水、お花、ご飯、お線香なども何故お供えするのか?意味が分かり何よりでした。安らかなる心を今後も持ち続けていければと思います。

練馬区 署 名

山川先生の「洒水」「加持」

「お授け」を頂き、洒水の時急に涙があふれてきました。度重なるガンの出現に心がつぶれそうになり、お不動さまにこの苦しみを伝えるために来ました。金剛合掌も教わり

ありがたい時間でした。

お花講

八王子市 長澤美恵子

「お花」とは厳しさに耐え忍ぶからこそ美しい心を私達に与えて下さる、と言うことを教えられました。お花講に参加することで、少しでも私の心にお大師さま、お不動さまに出会えるような気がして、本当に幸せだと感じました。世の中、楽なことより苦の方が多いように思いますが、お大師さま、ご先祖さまに見守られ、信心を強く持つて明るい心で生きたと学ぶことができました。

日野市 佐久間彩子

毎年参加させていたいています。法話は洒水の儀式があり「参加型」の内容で楽しくお聴きしました。護摩修行の炎を見ると「今年も参列できて良かった」という気持ちになります。久しぶりの精進料理も大変ありがたかったです。真心のこもったおもてなしに感謝申し上げます。

多摩八十八ヶ所結願

国立市 小林寿江

久しぶりの巡拝でした。各お寺さまのご接待など心に残ることが多く、心の平穩をいただきました。

東大和市 尾崎美和子

四年振りに参加させて頂き無事結願する事ができました。日々の生活の中で、この経験を生かして行きたいです。まずは毎日笑顔をやさず過ごす事が出来るよう心掛けてまいります。

清瀬市 沖山 順子

コロナ禍で四年振りに心新たな巡礼ができました。札所の住職さんが温かく迎えてくださり、良いお参りでした。結願の法話「山岳修行」たいへん良いお話でした。「六根清浄」の意味を知ることができました。

職場体験

打越中 八木蒼太郎

仕事の体験だけではなく、茶道の体験や色々なところも見せてもらい、他の場所ではできない一生に一度の体験ができました。ごはんもおいしかったです。三日間本当に楽しかったです。

打越中 丸山 溪太

この三日間職場体験をさせて頂いて有難とうございまして。この三日間だけで沢山の事を学びました。お寺の仕事のすべてが楽しく興味のある事ばかりで、将来社会に出たときの良い経験になったと思います。

御◆案内

交通安全祈願

午前九時〜午後五時(午後四時半までにお申込下さい)

ご祈願料

金三〇〇〇円也

御護摩修行

平日 八時・十時・十一時半・一時・三時

土曜・日曜・祝日

八時・十時・十一時半・一時・二時半・四時

但し一日、十五日の午前中は

五時・十時・十一時半

ご縁日(二十八日)

五時・九時・十時・十一時・十二時・一時・二時半・四時

※正月期間中(一月一日〜二月十一日)は特別時間となります。

詳しくはお問い合わせ下さい。

御護摩料

金三、〇〇〇円也 金五、〇〇〇円也

(天護摩)金三〇、〇〇〇円以上

ご縁日 毎月二十八日

フリーマーケット(リサイクル市)

毎月第二日曜日(雨天中止) ござれ市(がらくた市)

毎月第三日曜日(雨天決行)

お焚き上げ

毎月十五日午前九時

月例写経会

毎月二十一日午後一時半

千体地藏尊月例法要

毎月二十四日午後二時

奥殿拝観(月曜休館)

午前九時〜午後四時

拝観料 三〇〇円

大日堂 鳴り龍・襖絵拝観

午前九時〜午後四時

参拝料二〇〇円(月曜休館)

尚法要中は拝観一時休止になりますのでご諒承下さい。

編集室だより

先日 京都総本山智積院の行事が有り八日間程行つてました。駅周辺や有名寺社、観光地等何処も大混雑で、今迄来日の少なかつた外国人が増加したとか、タクシー運転手さんが言っていました。

奥殿だより(P13) 涅槃図が修復が終わわり明年二月十五日午後一時法話 午後二時法要大日堂に飾られますので寒い頃ですが是非共間近かでご参拝ください。

発行所

〒191-0031 東京都日野市高幡733 別格本山 高幡山金剛寺 電話 (042)591-0032(代) FAX (042)593-3038 振替 東京 00100-8-54134番 発行人 黒川 高德 編集人 年4回発行・再生紙使用

初詣境内御案内図



①宝輪閣

1階-護摩受付所
地階-護摩札お渡し所

②交通安全祈願受付所

③おみくじ

④不動堂…毎日護摩修行

⑤五重塔々院

釈迦三尊像参拝

⑥奥 殿…寺宝展会場(指定文化財多数展示)

重文不動三尊像は奥殿正面から自由に参拝して頂けます

⑦上杉堂

(百ヶ日忌・水子供養等)

⑧納札堂

⑨事務局

(総受付・御朱印所)

⑩客殿二階

(予約元旦護摩お渡し所)

⑪大日堂…鳴り龍・八福神襖絵拝観 位牌堂(歳三位牌等多数)参拝

正月参拝の方は京王線・多摩モノレール・バスをご利用下さい。